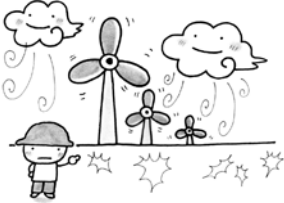




2015.10.18 本科・日本語科合同遠足
ディズニーシー

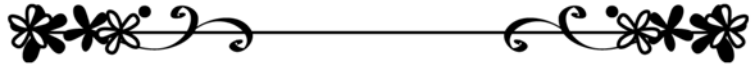
A先生の新語コーナー



qìfēng “弃风”

風力発電の電力が送電網に接続されずに捨てられてしま
うことを指す。原因は風力発電の出力が天候の影響を受け
て不安定なことのほか、電力系統側の事情（送電能力不足）
もあるようだ。今年上半期（1～6月）に捨てられた全国の
風力発電電力量は前年同期より10.1億キロワット時多い
17.5億キロワット時。その割合は15.2%で、前年同期
を6.8ポイント上回った。ちなみに「弃光」は太陽光発電
の電力が捨てられることをいう。
(A)

2015年8月に日中学院で、長きにわたり別科通訳案内士対策講座をご
担当頂きました。芳沢先生が退職されました。それに際して先生から、
ご寄稿頂きましたので、皆様にご紹介します。



日中学院ガイド講座23年間を振り返って 担当講師 芳沢ひろ子

日中学院の通訳案内士受験講座
は1992年にスタートしました。
今から23年前です。私はその二
年ほど前にこの試験に合格したば
かりで、家事子育ての合間に通訳
の勉強をしたり翻訳のアルバイト
をしたりしていました。ある時そ
の翻訳会社の同僚から「日中学院
でガイド講座の先生を探している。
応募してみない?」と聞かれ、「そ
れはぜひ」と受けてしまったのが
ご縁の始まりです。中国語は大学
で第二外国語として勉強し、あと
は中国語会話教室で一年半ほど会
話のレッスンを受けただけです。
それも十年ほど前のことで、子供
が小学校に入ったのをきっかけに
勉強を再スタートさせたばかりで
した。留学はおろか、中国には旅
行に行ったことさえありません。
我ながらあきれほどの身の程知
らずでした。「中国語はまだま
でも合格のためのテクニックなら
教えられる」と授業案を20ページ
ほど書いて学院長の吉田先生に提
出すると、すんなり?採用が決ま
ってしまいました。

私は大学の国文科を卒業した後
中学、高校で国語教師になったの
ですが、中学生、高校生に教える
というのは授業以前に人間性のぶ
つかり合いが求められ、内向的、
閉鎖的性格の私には挫折の連続で
した。いろいろな事情もあり数年
で教師をやめてからもだいたい年
月が経っています。教師は向いてい
ないと自覚していたはずなんです
が、もう一度社会に出たい、大好

きな中国語を使って社会の中でも
生きてみたいという渴望の方が強
かったのです。中国語教師として
実力も実績もおおりの沈暁文先生
とコンビを組んで授業がスタート
しました。最初の年の受講生は五
人だったと記憶しています。初め
て教壇の前に立ちますと教室には
なんともいえない暖かな空気が漂
っていて、大人の生徒というのは
こんなにも優しいものなのかと感
動しました。後でこの頃の受講生
の方に当時の印象を聞くと「先生
がとても不安げだったのではら
らして授業を受けていました」と
のこと。「先生がんばって」という
無言の応援が嬉しくて夢中にな
って授業の準備をしたことを思い
出します。

がんばって授業準備をし合格者
は毎年出すことはできていたもの
、中国語の力のなさは自分が一番
わかります。毎週中国人の先生に
ついて教材の予習をし、その先生
の中国人としての語感を少しでも
身につけたいと願いました。この
先生には今に至るまで教えていた
いでいるのですが、他の方にお名
前を公表するのを拒まれます。何
かわけがあるのだと長年思い込ん
でいたのですが最近理由がわかり
ました。それは「日中学院の先生
ともあろう人がいまだ中国人教
師から教わっているなど人に知れ
たら恥ずかしいだろう」と私を慮
って下さったようなのです。親の
心子知らずとはこのことです。当
の本人は恥ずかしさなどみじんも
感じる

ことなく教わっていたのですから。

ガイド科は基本的に一年間で受講生が入れ替わります。それが23回続いたわけですからその一回一回は年輪のようで、年輪ごとの記憶や出会い、ご縁があります。ある年にいらした中年の女性は学期の途中でやめてしまわれたのですが、その後しばらくして葉書をいただきました。ご家族が皆お病気で授業に行けなくなったというのです。そして辛い事の続く日々の中でガイド科の授業に出ることだけが希望の光でした、と書かれていました。なんとありがたいことだろうか、と私はその葉書を長いこと部屋の壁に貼っておきました。その方はその後無事復学し合格されました。七十歳で合

格しその後ガイドの第一線で活躍された方もいらっしゃいました。十年近くチャレンジしても合格せず諦めてから数年、期待せずに受験をした結果合格し念願の資格を得た方、親の反対で中国語を専門に学ぶことができず企業に入って十年余り、ガイド試験に合格した後会社にアピールして中国に赴任することになった方、日本人と結婚した中国人女性で、その後まもなくご主人が他界、一人で子供を育て上げ今ガイドとして活躍している方……いろいろな方のいろいろな人生が思い出されます。その中のたくさんの方々と今もさまざまなお付き合いのあることが私の自慢であり喜びでもあります。ガイド科という週に一度の教室は、

いろいろな意味で私を育ててくれ豊かな実りを与えてくれました。感謝の思いでいっぱいです。

日本のガイド制度は矛盾と問題に満ちています。猛勉強をして資格を手に入れても仕事に結びつかどうかはわかりません。それでも私はこの仕事の未来に可能性と面白さを感じています。そしてこの資格を取るための一年間の猛勉強にも意味を感じています。それは単なる受験テクニックを学ぶことではありません。中国語で生きていくために黙々と畑を耕す時間です。どうかこの後も新しい先生の前で存分に汗を流し、中国語の世界を楽しめますよう、ガイド科の教室と日中学院の未来にエールを送りたいと思います。



おめでとう!!

9月27日(日)に行われました第33回全日本中国語スピーチコンテスト東京大会において、優秀賞に本科2年の森田麻友美同学、努力賞に本科研究科の山本美紀子同学が受賞されました。今回は当日お二人が発表された原稿をご紹介します。また最優秀賞に輝いた赤池晴香同学は、本科研究科の卒業生です。

笑臉 森田麻友美(本科2年)

这天酷热，我逛了北京的前门大街上的好多商店后，为了回宿舍，坐上了双层公共汽车。只不过问师傅这趟车去不去我的目的地，然后买张车票，这么简单的事儿让我费了好多力气，坐进靠窗户的座位时，我累得叹了一口气。

到中国留学，这对我来说是第一次，所以什么都不知道，哪儿也不熟，而且我的汉语水平还不太高，做什么都很紧张，很疲劳。比如说，我进商店的时候，服务员对我说些什么话，我听不懂他说什么，我十分尴尬，心里很不好受。有一次，老师告诉我中国的商店可以讲价，所以我在商店里尝试了讨价还价。不过，我还是听不懂服务员说的话。我没发讲价，死了那条心，只好按服务员说的有点儿昂贵的价格买了一个小小的纪念品。我觉得，听不懂对方说的内容，令人非常着急；同时自己想说的话不能让对方了解，也令人感到十分遗憾。这就是

一种不愉快的感觉，这种感觉会增加我的疲惫感。

这天我只买了一个很大的布制玩偶。去收款台交钱时，服务员问我要不要袋子，我想要一个袋子，但是说不出话来。服务员也许等不及我回答就开始对待了下一个顾客，最后我没能得到袋子，不得不把那个玩偶抱在怀里走了。在炎热的天气下，一个成年人抱着玩偶，引起了过路人的注意，甚至有些小孩儿指着我大声喊“有个阿姨抱着布制玩偶！”不知为什么这样讽刺的、批评的话能听懂，我真不好意思，低着头匆匆地走去。

布制玩偶的大小有公共汽车的座位那么大，所以我把它放在旁边的座位上。我累得有点儿发呆，痴痴地看了外面的景色，这时，从对面开过来了一辆公共汽车，停在了我坐的公共汽车旁边。忽然我的视线和那辆公共汽车的司机先生的视线碰在一起了。我对他微微地笑了，他也对我微笑了。我还借用布制玩偶对他挥了挥手。他看见，就嘻嘻地笑起

来，然后竖着大拇指对我说“好！”

这时我才发现，在人和人之间的交流上国籍没有关系。当然语言很有用，但是互相很亲切地笑更重要。那位司机不知道我是日本人，除了他说的一句“好”以外没说什么话，但是我和他的两张笑脸让我们能够沟通，感到很开心。忽然我发现了一个

比语言更重要的东西，这就是在交流上怎样对待人，给人表示什么表情非常重要。以友好的态度对待人对方也就同样对待你，接受你。此前是不是由于听不懂我给人看的表情很阴郁。这时，因不懂汉语而感到的疲劳一下子都消失了。

(日本語訳) 笑顔 森田麻友美

その日はとても暑い日で、私は前門の大通りをぶらぶらした後宿舎に帰るため二階建てのバスに乗った。そのバスが私の行きたいバス停に行くのか運転手に聞くのも、切符を買うのにも一苦労で、窓際の席に座ったため息が出るほど疲れていた。

中国へ留学で訪れたが、中国へ来るのも私にとっては初めてで、まさに右も左もわからない。自身の中国語のレベルもまだまだで、何をするにも緊張し、疲れるというほどだった。たとえば、商店に入った時店員が私に何かを言うの다가何を言っているのか分からない。とてもきまりが悪く、つらかった。またある時、先生から中国の商店では値引き交渉ができると聞いていたので、ためしにやってみようと思った。しかし、やはり店員の話していることが分からず、すぐにあきらめて店員の言った少し高めの値段でお土産を買うのが精いっぱいだった。相手が言っていることがわからないという事はとてもいらいらとしてしまうし、また同時に自分の言いたいことが相手に理解してもらえないのもとても残念なことだと思った。この、あまり面白くない感情は私の疲労感を増長させているような気さえた。

ある日、私は大きなぬいぐるみ一つ買った。レジで店員から袋は要るかと言われたが、要りますという言葉が出てこなかった。店員は私が言葉選びに迷っているうちに次の客の応対を始めてしまった。私は袋をもらうことができず、仕方なくぬいぐるみを抱えて行くことにした。炎天下の日に、いい大人がぬいぐるみを抱えているのは道行く人の注意を引き、小さい子供にいたっては私を指さして大声で「あのひとぬいぐるみ持ってる！」とさえ叫んだ。なぜだかわからないが、そういった聞きたくない言葉は全部きちんと耳に入って来て、私はとても恥ずかしくなってしまう。早く歩いた。

ぬいぐるみはバスの座席と同じくらいの大きさがあり、私はぬいぐるみを自分の隣の座席に置いた。ぼうっとするくらい疲れていて、ぼんやりと窓の外を眺めていた。その時、向かいから走ってきた一台のバスが私の乗っているバスの隣に停まった。思いがけず、隣のバスの運転手と目が合い、私が彼に向かってにこっと笑いかけると、彼も私に笑みを返してくれた。わたしは隣に置いてあったぬいぐるみを抱え、ぬいぐるみの手を彼に向けて振って見せた。彼はそれを見てくすくすと笑い、そして親指をグッと立てて「いいね！」と言った。

その時私はやっと気が付いた。人と人との交流に国籍は関係ないのだと。もちろん、言語はとても重要だが、お互いに親しみをもって笑いあうことはもっと重要だ。あの運転手は私が日本人だという事は分からなかっただろう。「いいね」という一言以外は彼は何も話さなかった。しかし、私たちの笑顔はお互いに気持ちを通じ合わせるには十分だったし、とても楽しいという感情を与えてくれた。この出来事で、わたしは言語よりも重要なものに気づくことが出来た。それは交流をする中で人に対してどのように向き合うか、人に対してどんな表情を見せるかがとても重要だという事だ。友好的な態度を相手に見せることで、相手も同じように自分に対して友好的になり、受け入れてくれる。これまで話が分からないことでもしかするとわたしは暗い表情をしていたかもしれない。この考えにいたって、中国語が聞き取れないという事の疲労感はあっという間になくなってしまった。

一期一会 山本美纪子 (本科研究科)

日语里有这样一个俗语“一期一会”。本来是日本茶道用语，“一期”表示人的一生，“一会”则表示仅有一次机会，意味着珍惜每一次独一无二的茶会。而在日常生活中，意味着应该珍惜和人的相

遇之缘，都要真诚以待。

虽然我只有三十岁，但已经经历过很多相遇和离别。在相遇的人中，当然有现在还保持来往的人，但也有离别后渐渐疏远的，吵架分手的，下落不明的，甚至去世的。有时候我担心他们，不由得上网聊

入他们的名字,查查找找或问问认识他们的人,但他们几乎都找不到,这让我感到很难过,也很后悔。我很想和他们消除误会和好,也想说那时候我们为什么害怕未来而放弃追求梦想?但现在和他们失掉了联系,这么想已经太晚了。

我怎么也不习惯和人离别。我总觉得习惯于离别好像有些缺乏人情味。我害怕和人离别,所以在家里独处。因为呆在家里,不和人相遇,也就不会和人离别,当然也不会因离别而伤心。但既然我想学习和工作,我还是会和人相遇,也免不了和人离别。我知道和相遇的人哪天一定会离别,哪怕是父母,哪怕是好友。但在一起的时候会忘掉这些,以为明天也一定会见面而感到很轻松。有一天,突然离别了,我才不得不面对这个现实。我只好对自己说:“没办法,这是人之常情……”不管我多么后悔,多么悲痛。有时候我也会积极地想:“世上有几十亿人,如

果我们有缘相遇,这缘分一定会让我们哪天再见的!”但这只是一刹那的安慰,世界比我想象的要复杂的多。

人相遇了,一定会有离别,有人说:“人是为了离别而邂逅”。我将来打算去外国工作,现在我的生活范围还很狭小,但如果去外国工作,生活范围一下子会扩大,当然会有更多相遇和离别。和人离别时我也许还会感到悲痛,感到失落。但我不想再后悔这么做,那么做就好了。在个人生活中自不必说,在人类的历史中我们也因犯了很多错误而后悔,“前事不忘,后事之师”当然非常重要,这能使我们避免犯同样的错误。但时间也不断流向未来的大海,面向未来我要更珍惜“一期一会”的精神,对每个相遇的人真诚相待,有福同享有难同当,一起追求梦想,一起辛勤耕耘,过好“一期一会”的每一天,使我们的今天更加美好,使我们的明天更加辉煌。

(日本語訳) 一期一会 山本美紀子

日本語に「一期一会」という諺があります。本来は茶道用語で「一期」は人生、「一会」は一度しか無い機会の事であり、毎回二度と無い茶会を大切にすべきであるという意味であり、日常生活でも人との出会いを大切にし、誰にでも誠実にすべきであるという意味があります。

まだ三十年しか生きていませんが、沢山の出会いと別れを経験しました。出会った人達の中にはまだ付き合いのある人もいますが、次第に疎遠になった人、喧嘩別れした人、行方が分からなくなってしまった人、死別した人もいます。時々彼らの事が気になってネットで彼らの名前を検索に掛けて捜したり、知り合いに尋ねたりしますがほとんど見つかる事はありません。その時は、後悔でとてもやりきれない気持ちになります。誤解を解いて仲直りしたかった、あの時何故後先を恐れ諦めて一緒に夢を追わなかったのだろうか。そんな事を思っても彼らのいない今となってはもう遅いのです。

沢山の別れを経験しても、そのような理由でどうしても慣れません。別れに慣れてしまうのも人情味に欠けると思いますが。別れを恐れて家に閉じ籠った事もありました。家に閉じ籠ってれば人と出会わないから別れて傷付く事も無いからです。しかし勉強や仕事をしたい以上やはり人と出会わねばならず、別れも避ける事が出来ません。家族や親友であろうと、いつか別れてしまう事は分かっているのですが、一緒に過ごしている時は明日も会えるだろうと思ひ、どうしてもその事を忘れてしまいます。ある時訪れる突然の別れでその現実気付くのですが、どんなに後悔の念でやりきれなくても「これは世の常だから仕方無い。」と言い聞かせざるを得ません。前向きに「世の中には何十億人もいて、その中から出会えた位の縁なのだから、きっとその縁でまた会えるだろう。」と言い聞かせたりもしますがほんの一瞬の慰めに過ぎません。世界は思った以上に広いのです。

人は出会えば必ず別れます。「別れる為に出会うのだ。」と言う人さえいます。私は将来外国で働くつもりです。今現在の生活範囲は狭いですが、外国で仕事をするようになれば生活範囲は一気に広くなり、人との出会いや別れも更に多くなる事でしょう。別れを迎える時は悲しい気持ちになるだけで、後悔だけは二度としたくないです。日常生活だけではなく、人は歴史の中で沢山の過ちを犯し後悔しています。「過去の経験を忘れず、将来の教訓とする」同じ過ちを繰り返さない為にこれはもちろん大切な事ですが、時間が絶え間無く未来へ向かっている事実もあります。私はこの「一期一会」の精神を大切にして、別れを迎える前に出会った人達と誠実に向き合い、喜びや悲しみを共有しながら共に夢を追い、人生で一度しかない毎日を全力で過ごしていきたい、私達の今日と明日を更に輝くものにしていきたいと思ひます。

別科朗読大会報告 10月3日(土)



例年開催されている別科朗読大会が今年も行われました。今年は初級から上級まで28組が参加され、日頃の学習の成果を発表しました。朗読大会では、日本語科の中国人留学生や、大学や高校で中国語を学習している学生もゲストとして参加しました。各レベルの課題文を先生方が朗読し、その美しい中国語の朗読に耳を傾けました。また、例年お越し頂いている陳淑梅先生にも朗読の講評をして頂き、大変賑やかな会となりました。朗読大会前には、参加される皆さんが、授業前後などに熱心に朗読を練習される姿をお見かけします。日頃の学習の成果を発表する場として、今年参加されなかった方も来年は参加してみても如何でしょうか。多くのご参加お待ちしております。



今年朗読大会に参加された大堀龍生さんより感想文をご寄稿頂いたので、ご紹介します。



別科朗読大会に参加して

大堀龍生 (昼間 週2初級後期)

どんな習い事でも、学習や練習の節目として発表会の果たす役割は大きいと思います。まったくのゼロから中国語を習い始めてちょうど6か月の私には、この朗読大会参加が、日々の発音練習を見つめ直す絶好の機会となりました。そして、教科書「学汉语」に、なぜあれだけ「詩の鑑賞」が載っているのかが、よく分かりました。

私は、これまでも英語とフランス語に向き合い、現在は、文字どおりの「六十の手習い」を中国語で実践しているのですが、学習の過程で「母国語の干渉」(母国語の知識や能力が外国語習得の邪魔になること)を、これほど痛感したことはありません。すなわち、中国語の音(の区別)が、私には難し過ぎるのです。

とは言え、この難しさに取り組むことこそが、私にとっての中国語学習の面白さでもあります。そして、その方法のひとつを、朗読大会の練習を通じて学んだように思います。それは、「詩の暗唱」です。

ひとたび暗記してしまえば、一日中いつでもどこでも、何も見ずに練習できます。暗記するのは、教科書の会話文や短文も同じなのですが、詩は音そのものです。自宅での練習で、まるで歌うように、声高らかにゆったりと詩を暗唱すると、それまではるか遠くにいた中国語の音が、自分自身に

近づいてきたような錯覚にすら陥ります。これこそが、この朗読大会に参加したことの一番の産物だったように思います。

さらに、中国の人たちの一般教養であろう漢詩を上手に暗唱できれば、いつか思いがけないところで、芸は身を助けるという副産物に恵まれるかも知れません。

会場いっぱい年齢もさまざまな皆さんを前に、私たちのクラスは、プログラムの第1番目で「秋叶飘飘」を朗読しました。ちょうど今の季節にぴったりの詩です。私はこの詩を、「初めて中国語で暗唱した詩」として、いつまでも忘れないでしょう。

小澤光恵先生、付立華先生、ご指導ありがとうございました。



昼間週2応用クラス(258期)と日本語科生との交流学習会を行い、テーマに基づいて意見交換などを行いました。当日参加された同学から、このクラスにご寄稿頂きましたのでご紹介します。

9月14日 基礎課程応用クラス 交流学習会 中山庚一郎

10時半から昼まで、お二人の中国留学生と「お月見」「中秋節」について日本と中国の意見の交換会をしました。

1 中国留学生は若くハンサムで、聡明でした。

まずそれぞれの自己紹介をしました。

驚いたことは、若いお二人が、はっきりした発音でゆっくりと

会話してくれた心遣いです。寧波出身の何さんは、8歳のころから日本の動画が好きで、土曜日の番組の画面の日本語のテロップで、日本語を覚えたと言っていました。

教科書の課文の会話も日本側のそれぞれと感情をこめて、読みあってくれました。



2 詩文の文字は、感情をこめて発音され、生き生きとした詩歌になりました。

李白の静夜思と安倍仲麻呂の望郷詩が朗読されました。

私たちは学習で文字の発音や意味、文法を学んでいます。ややもすると徒に難しく、退屈なものになっていきます。しかし文字で書かれた文章は、ももとは人が生き生きと話していたことを文字で記録したものです。

本来は生き生きと魅力的であった筈です。

彼らはそれを私たちに教えてくれました。

終了後、茶を飲み、中秋の月餅を皆で食べました。

有難う、とても良い交流会でした。



日本ペンクラブ・日中学院共催

日本文学シンポジウム 食と文学

日本ペンクラブでは、中国作家協会の作家と相互に訪問して交流する活動を行っています。今年はその一環として、日本ペンクラブと日中学院の共催でシンポジウムを行います。皆様のご参加をお待ちしております。

日本ペンクラブ会長 浅田次郎氏の講演もあります!!

日 時：2015年11月27日(金) 13:30～16:30

場 所：日中友好会館地下大ホール

参加費：500円

締 切：11月17日(火) ※定員になり次第締め切ります。

申込方法：必ず事前に電話・メール又は日中学院受付に、お申し込みください。

TEL：03-3814-3591 E-mail：info@rizhong.org

※E-mailでお申し込みの場合 ①氏名(フリガナ付)、②ご連絡先電話番号、

③11/27シンポジウム希望 ①～③を必ずご記入ください。

～新任講師紹介～

本科講師：二ノ神正路 (本科日本語教授法担当)

9月から日本語教授法を担当することになりました二ノ神正路と申します。

大学では日本語学や日本語教育を専攻していたのですが、大学4年次になぜだか韓国語に興味を持つようになり、卒業後には韓国へ留学。その後、流れに身を任せるまま韓国で職を得て、10年間、韓国の大学生を相手に日本語を教えておりました。日中学院は中国語を学ぶ学校ということで、残念ながら韓国語の知識を生かす場はあまりないようですが、外国語を学ぶという点では、本科生の方

ともお話しできることがあるかと思っています。

日本語教授法では、日本語を教えるための基礎を学んでいきますが、それは同時に、日本語をひとつの外国語として見つめなおす作業ともなります。自分の母語を客観的に捉えなおすことは、外国語を学ぶ上でも必ず役に立つものとなるでしょう。

日本語のこと、中国語のこと、韓国語のこと(？)、それ以外のこと、今後、みなさんと授業等を通じて様々な話ができることを楽しみにしております。



～図書室便り～

すっかり秋めいてきましたね。今月は前回に引き続き、北京で購入した本の中からの紹介です。

●『北京的春节』

老舍 文・于大武 图
連環画出版社

北京の旧正月は農曆の12月、腊八粥を食べるところから始まります。この日から大晦日に向けて人々は年越しを迎える準備に忙しくなります。そして元旦。

その後の元宵节。于大武の絵はとても生き生きしており、自分が春節を迎え、過ごしているような錯覚に陥ります。老舍にとって懐かしい旧北京の思い出なのでしょう。日本の年越しとも共通している部分もあり、興味深く読めます。この作品は老舍の『倾听老舍』(CD付)という本の中にも集録されています。こちらには絵本の内容についての説明があります。



●『小狐狸买手套』

(日) 新美南吉・文
(日) 黒井健 图
彭懿・周龙梅 译

日本でお馴染みの新美南吉の『手袋を買いに』です。黒井健の絵は穏やかで、厳しい寒さも雪原も温かく包み込んでくれます。中国語ですが、文章が短いので抵抗なく読めます。絵本は元々、親が子供に読み聞かせる役割も持っているもので、音読にも向いています。秋の夜長に、中国語で童話を読むのは如何でしょう。



《寄贈》

下記の皆様よりご寄贈がありました。
有難うございました。

- 麻生信男様『扶桑游記』
- 大里浩秋様『中国年鑑2008』他
- 大江英之様『アジアの仏教と神々』他多数。

図書室開館時間

月曜日～金曜日：12:00～18:45

土曜日：12:00～18:00

中国語の教材はもとより、各種検定向けテキスト、DVDなど取り揃えています。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

11月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
1	2	3 ●休日	4 ●文化祭代休 (本科・日本語科)	5	6 ●本科推薦締切	7
8 ●本科推薦入試/ 留学試験	9 ●日本語科定期 試験(～13日)	10 ●本科推薦入試 合格発表	11 ●本科1次試験 募集開始	12	13	14 ●倉石先生生日 ●本科生のための 公開講座
15	16	17	18	19	20 ●日本語科 1日ハイク	21
22 ●中国語検定試験	23 ●休日	24	25	26	27 ●別科公開講座 (18:45～) 基礎・入門 ●シンポジウム (13:30～)	28 ●ワークショップ 「中国結び」 (14:00～)
29	30					
●12月の日中学院 ・4日…本科1次試験締切 ・5日…本科研究科学内試験 ・別科公開(13:00～入門・基礎) ・6日…本科1次試験			・8日…本科1次試験合格発表 ・9日…本科2次試験募集開始 ・12日…別科公開講座(13:00～入門) DVD上映会(14:00～) ・15日…本科定期試験(～21日)		・19日…日本語科冬休み開始(～1/11) ・22日…本科冬休み開始(～1/11) ・22日…別科259期授業最終日 ・26日…閉門(～1/5)	

ワークショップのご案内

「中国結び」から知る「結ぶ」文化

「中国結び」をご存知ですか。中国結びとは、ヒモを結ぶことで様々な形を作り出していく芸術のことをいいます。今回の「中国結び体験ワークショップ」は、「中国結び協会」の代表で、中国結び作家のみなみりょうこ先生をお招きし、日本や他地域の「結ぶ文化」との比較などを学んだ後、参加者のみなさんと中国結びをつくっていただきます。ぜひご参加ください！

■主催：日中学院・公益財団法人国際文化フォーラム(TJF)

■助成：漢語橋基金

■講師：みなみりょうこ先生

■日時：2015年11月28日(土)

14:00-17:00(13:30受付開始)

■会場：日中学院

■対象：小学生から大人までどなたでも

■定員：30名(先着順)

*参加ご希望の方は、下記より事前申込が必要です。

<http://link.tjf.or.jp/RCH151128>

■参加費：500円(当日受付にてお支払いください)

*小中学生の参加は保護者の同伴が必要です。

同伴の保護者も、参加費が必要となります。

■問い合わせ：TJF長江(水口) 03-5981-5226



□『斎了会の50年』

日中国交回復前、1965年に日本の若者の一団が中国を訪問。この訪中活動は、それ以来文革中も途切れることなく1972年まで続いた。中国を知りたいという若者840人、ちいら(斎了)会です。この度その活動の記録が完成、学院の図書室に届きました。

□映画「John Rabe」DVD上映会

戦中、日本軍の南京事件のさなか、現地人保護に奔走したドイツ人商社マン、ジョン・ラーベの書き残した『拉贝日记(ラーベの日記)』を原作とした、ドイツ・フランス・中国の合作映画のDVDを上映します。中国語音声・字幕の映画となります。

日時：12月12日(土) 14:00～

場所：日中学院 LL305教室

参加費：無料 定員：20名

*参加希望の方事務局へお申し込み下さい。